

1月のくらし

家計簿の記帳

広報かわにし

発行人 川西町 所長 西村 壮吉
編集 西村 壮吉
印刷 西村 壮吉
名所 西村 壮吉
星白 西村 壮吉
四風 西村 壮吉
郎社 西村 壮吉
田円 西村 壮吉

人口の動き

1月1日現在

男 6658人
女 6918人
計 13576人
世帯数 2701世帯

年頭のあいさつ

川西町長 中村 壮吉



謹んで昭和三十八年の新春をお祝い申し上げます。本年も相変わらず町発展のため町民の皆さまの貴いご苦労をお願いいたします。昨年は終戦後一番陽気の良い年ではないかと思われまふ。春以来五風十雨で災害も極めて僅少で豊年でたくさん米を供出していただきました。本年も斯くありますように祈念いたします。毎年元日にその年の計画の概要と私の覚悟を申し上げて皆さまのご協力をお願いして参りましたのでこれから申し上げさせていただきます。いつものように教育文化施設と産業育成の二つに分けて述べさせていただきます。教育施設では何と云っても川西中学校の屋体を造って整備を完了させていたが、五千万円もかけていたが、これまでに二十四間に三間、八間の玄関をつけて約四千万円、それに水洗便所、大きな別棟やら上野旧中学校の教室の移築、屋外環境の整備等これも約一千万円近くかかると思

ます。なかなか大変なんです。一般会計から三千万円しか繰り出しできない財政事情では補助金と低利起債でまかなわねばならぬので、いわゆる借金せねばならぬので一部は翌年回しとなるもいたしかたないと思ひます。川西中学校建設のために国鉄さんから三千万円約七百万円の増税を認めたいお願いが身にしみてありがたく感じます。次は仙田中学校の寄宿施設の完了、千手定時制高校の整備、十日町高校の学級増の負担等があげられますが、ご承知のように今は国をあげて人的資源の涵養につとめておりますが、特に川西町は人間づくりに精進せねばなりませんので教育費もたくさんであります。次に文化施設の大物は栄橋であります。これは今年度の二年で竣工することに確定してもらいましたが、これも驚く千万円を要します。それから文化の先端を行く道路工事です、千手・小千谷街道の舗装、松代・小国長岡線の国道改良、藤沢林道、野口・白倉大沢線の県道昇格に伴う改修工事、千手・十日町の無雪道路、この無雪道路には皆さまからご理解あるご協力をお願いいたします。それから上野・木落間の二級国道の新設、各所の部分改修ならびに尿処理の施設、診療施設、消防施設を含めて、なかなか

大仕事でございます。お次は産業の育成であります。米どころ川西のキンシにかけて日本一うまい米づくり、多収種の選手としてガンパツチもろうよう技術指導、営農指導に体勢を整えて農業改善に備えるつもりです。次に集団養蚕を奨励して近代化養蚕によって生産コストの低い繭を作っていたでございます。それから、昨年あたりは非常に好成績であった煙草作り、こんにやく作りが意気消沈しておりますので本年はフンパツチもらいます。次に開田事業であります。おかげさまで上野松葉沢水系の四十町歩近くの開田貯水池等全部完成して昨秋竣工式をあげて功労者に感謝して喜んでいただきましたが、本年も橋の九万堂原の揚水開田を完成する予定になっておりますが、関係者の方がたも容易ではありませんが町でもいろいろ面倒見をあげた工事です。おかげで力していただきます。お次が災害復旧工事です。一昨年までの災害が非常に多かったのです。本年はほとんど完成したいと念願しております。一番大きい工事は橋の塩辛沢の南沢北沢の五千三百万円の工事です。高率補助の九割以上という国の補助があります。これは防災的な本施策だけに関係者は苦しんでおります。一日も早く完成して救っていただきます。次が各種の補助金負担金ですが、これも集めるとたいそうの額になります。けれどこれとても培って行かねばならぬ民力涵養の施策でございます。のであれやこれやで新年度予算は国保特別会計を除いて一般会計は一億六千万近いものになります。

雪深い山里ですが、住みよい平和な町にしたいと皆さんがたといっしょに手をとって行くわけですが、それでも年々人口が減って、今では一万三千五百余人となっております。一番大減りしたのは旧仙田村ですが、みているは無理も

一月の行事

- | | | |
|----|------------|-----------------------|
| 一日 | 元旦 | 川西中PTA役員会 |
| 四日 | 御用始 | 運転者協会 |
| 六日 | 消防出ぞめ式 | 成人の日 |
| 七日 | 野口養蠶視察(町長) | 一六日 県町村会理事會 |
| 八日 | 川西中便所検査 | 一八日 野口婦人学級 |
| 二日 | 仁田開田起工式 | 二〇日 町民娯楽大会(会場、役場・公民館) |
| 二日 | 初議會 | 二二日 消防幹部會議(役場) |
| | | 二五日 町青年学級役員會 |
| | | 三一日 固定資産税の申告期限 |



新春歌詩

雪深い山里ですが、住みよい平和な町にしたいと皆さんがたといっしょに手をとって行くわけですが、それでも年々人口が減って、今では一万三千五百余人となっております。一番大減りしたのは旧仙田村ですが、みているは無理も

町議会報告

助役を二名に増加

最終定例会で議決

三十七年最後の町議会となった第十一回定例会は十二月二十一日に招集された。付議事件は、総額四百五十万円の追加更正と助役の定数を二人に増員する条例制定の件に、手小学校給食施設に対する寄付採納、及び町有土地の払い下げに関する件があった程度で、定例会としては少ない件数であった。したがって、会期も二日間、予定の通り一日で議了したので、翌二十日は議員の健康診断を実施したのち、全員協議会を開いて川西中屋体設計について外数件を協議した。

なお議会招集回数、前年度の十五回に比して三十七年は十一回、延日数にして二十日で前年より四日少ない。これは災害のない平穏な年であったことが原因と見られている。

徹底した無雪道路計画

一般会計の追加四百万

今回の追加更正は、降雪期を控えて無雪道路確保のための諸経費のほか、ブルトナーの分解修理代百二十万円、橋小学校の水道改修費五十四万円、冬期分校関係の経費、道路改修費等が主体で、総額才入とも四百二十万三千六百九十円、当初予算以来の累計額は一億三千八百九十四万二千四百八十七円と約一億四千万に近しい巨額となった。

才出のあらましを額の大きいものから列挙すると次のようになる。トップは産業経済費の百五十万七千五百円、そのうちブルトナーの分解修理代百二十万円が大部分を占め、あとは南沢北沢俱舎災害復旧工事に対する地元補助十五万、沖立で実施中の耕地交換分

ある。無雪道路の計画としては、十日町(手)農協前(間五)一キロは第二種路線として相当量雪が降っても常時車両の運行を確保するため国費をもって除雪排雪を行ない、手(上野間)一七キロは第三種路線として県費で除雪を行ない、なるべく車両の運行を確保するという方針である。第二種路線に該当する手(市街地)は、当初からダンブカーやシヨベルを使用し雪を運搬排出する徹底した除雪計画が立てられている。また手診療所前の百メートルは特別指定区間として車両のすれ違いができるように除雪することになっている。

これらの計画を遂行するために土木出張所を主体にして、郡市町村、交通関係業者、車両所有者等で組織している十日町地区除雪協力会に対する町負担金として十九万八千円、除雪作業人夫賃金七十七日分九万八千五百円、除雪作業が主として夜間に行なわれるため夜

助役人選の腹案はない

二人制は押木氏療養中だけ

長らく病気で入院されていた押木助役は退院後自宅療養中であるが、現在の健康状態ではその職に耐えないとして辞意を表明している。これに対して、中村町長は極力療養に専念できるように、助役をもう一人増員する決意を固め、地方自治法第六十一条第三項の規定にもとづいて助役の定数を二人とする条例案をこの定例会に提

出た。この措置は、町政の現状から助役のような重要ポストを事実上空白のままにしておくことはできないが、中村町長としては功績ある押木現助役に対して病気を理由に退職してもらうことは忍びないの、暫定措置として同氏療養中に限り助役を二人とすることにしたいもので、議会としてもこれを了して原案を承認した。

食等の食糧費三万円が追加計上された。なお、町道砂利敷の経費十萬円のほか、道路改良工事費として町道関係の工事請負費五十四万六千円の中には発電所通り側溝工事二十五万円、田中仙田通学道路二十万、野口堂の前橋渠工事六万五千その他があり、用地買収その他の補償金二十七万がある。土木費としては、ほかに塩辛橋の災害復旧費七十三万二千円が年度内に施工されなため更正減となり、高倉線災害復旧費五万五千円の追加と差し引きして総額五十六万六千円となったものである。

諸支出金の四十四万四千円は、十日町橋と高山の中間県道添いに土木出張所の車庫を建設するため、その敷地買収費負担金である。以下財産費八万一千円は橋駐在所の水道施設及び橋小学校教員住宅の修繕料であり、選挙費四万五千円は七月一日に行なわれた参議院議員選挙の追加分、消防費の二万三千円はポンプ操法受講手当

である。以上合計して四百二十三万六千九百九十円となる。これに対して財源は、ほとんどサイフの底をはいたというところから、町税の自然増も地方交付税の交付見込みも、ぎりぎりの繰り当てでやっと収支のつじつまを合わせたものであって、今後追加するとしても既決予算内で不要額を更正する以外に手はないという町長の説明であった。まず、町税として市町村たばこ消費税の追加百一十一万六千五百六十円、地方交付税のうち特別交付税の追加二百万を主体に、ブルトナー使用料の追加五十万、手小学校給食施設に対する寄付の追加分三十万五千円等があり、国庫支出金として農地交換分補助四万五千円、参議院議員選挙費委託金追加四万五千六百円、県支出金六千円、合計して才出と同額の四百二十三万六千九百九十円となる。

なお、新助役の人選について町長に腹案があるかどうか、執拗に食いさかしたが、町長は終始腹案はないの一点張りでおし通した。審議の概要は次のとおりである。

押木氏は療養に専念を

町長(提案理由の説明)「押木助役は目下自宅で療養中であり、本人は辞意を表明している。あのからだて再び現職をしてみたらおもうとは思わないが、あれだけ功績ある助役であるから、いますぐやめてもらうには忍びない

せめて連者になられるまで在職のまま療養に専念していただきたいと考えている。しかし、助役に休職というものはないし、助役自身が代理職だから助役の代理というものはあり得ない。非常に忙しい町政をかかえて助役なしでは町長としてもやり切れないし、町民にもめいわくをかけることとなる。そういうことでやむを得ず助役の定数を一名増加していただきたいというのである。

については助役の適任者があるのかというところ、今のところ全く腹案がないので、議会人も町長といっしょに助役製造に協力してほしい。」

田中(与)「確認事項としてお伺いする。この条例ができれば助役を選任することができるが、実際に腹案がないのか。」

町長「ないのではありません。あり過ぎてないのだからということもできる。」

田中(与)「これは人事問題であるから、選任して議会の同意を求めらる段階でまずい結果とならないよう、慎重に同意を得られる態勢を整えてもらわねばならないが、その心構えがあるか。」

事態が解決すれば一人に

平野「助役の定数を二人にするという事情は了解しているが、ただいまの事態が解消した場合はさらに条例を改正しなおす考え

か。

町長「この条例にただし書きを入れることも考えてみたが、適当でないというのであった。それで、現助役が辞職したらまた条例を改正して助役は一名にする。川西町に二人の助役は必要でない。」

町中(与)「押木氏の病氣という事態をカバーするために条例で一名増加しようということであると思うが、押木さんが辞職された場合には、そのままもうひとりを任命しなくてもよろしいんだし、また条例を改正して一名としてもよい、ということか。」

町長「この次の町長が、二人あったほうがよいということになれば別である。また現在課長に二人の欠員があるので、それらとにらみ合わせてやらなければならぬんじゃないか」という意見

論議をつくして町作りを

川西町議会議長 和久井 精一



希望と平和に満ちた昭和三十八年の新しい年を迎えるにあたり、まずもって町民各位のご健康とご幸福をお祈り申し上げ、あわせて常日ごる町の発展に多大のご協力

もあるが、課長、係長、主任級の人事は現職員が順々に繰り上がるのであるから、部内の相談で処理できるし、追加更正して吏員給を上げなくてもよいが、助役はそのうではない。給金の操作も予算にあけてしなければならぬ。」

助役は部内

からとは限らない

平野「川西町の規模から見ればひとりが適当だ」という説明があったが、町長の任期中にこの条例を再改正する意志があるか。」町長「押木助役が退職したときにもしわたしが町長に現職しておれば一名になおすつもりである。また、助役を部内から出すか部外から出すかという問題については、適任者であればどちらからでもよい。よその現職の役人からやめて来てもらう場合も

あるかも知れない。」町長「実際の面からいえば部内から格上げしたほうがよいと思う。どっちからでもよいことになって、部内がよいとおもうくらのことを表明してはどうか。」町長「なにしろ腹案がないんだから、部内でも部外でも適当な人からやめてもらおうというより仕方がない。」

をいたしておりますことを深く感謝申し上げます。さて、昨年の町政をかえりみまするに、当初私もが諸般の情勢から予想いたしましたことは、この年こそ町発足以来の容易ならぬ財政困難の年であるということであったのであります。しかるに、結果的には教育・産業・文化あらゆる面で建設的諸事業は順調に遂行され、予期以上の成果をおさめて、一般会計の予算総額も十二月末現在で約一億四千万というこ

ひるがえって、本年度につきましては、引きつづき躍進途にある川西町として数多くの建設事業が計画されているわけであり、まず渉外的には、豪雪対策問題、上越西線の着工線への格上げ問題、栄橋架橋を本年明年の二カ年で完成する問題、その他町内では国道道の改修、堤防の建設等々一連の事業について町長を中心として積極的に促進運動を推進しなければならぬのであります。

町長「ご心配のとおりである。この条例が決定すればこんどは急速に腹案が出ると思う。」(笑 声) 以上の質疑ののち、討論採決の結果原案どおり可決された。

町長「ご心配のとおりである。この条例が決定すればこんどは急速に腹案が出ると思う。」(笑 声) 以上の質疑ののち、討論採決の結果原案どおり可決された。

また、対内的には懸案の川西中学校屋体の建築を筆頭に、教育文化施設の充実、町道の整備、土地改良、災害復旧工事、特に本年度中に完成を予定する南沢・北沢川の大規模農営災害復旧工事等いずれも巨額の経費を要する問題が控えておりますが、極力国庫費の支出を獲得して町費負担の軽減をはかるべく特段の努力を要請されているのであります。

次に産業方面では、すでに十日町市をはじめ近隣市町村で指定を受けあるいは準備中の農業構造改善計画が、私どもの町にとっても本年の大きな課題になることと思われまふ。この問題は町の農業発展の将来を左右する重大問題でありますので、十分慎重を期してその方向を誤らないよう、これらを含めて私ども町議会としても研修を怠らず、かつ論議をつくして町の振興発展に最善をつくす覚悟であります。何とぞ町民各位のいつそうのごべんたつご協力をお願い申し上げます。

以上、年頭にあたり所信の一端を申し述べておあいさつといたし、ます。

新春娯楽大会

公民館では一月二十日(日)に例の新春娯楽大会を開催いたしますので多数ご参加してください。日時 一月二十日 午前十時

二、種目・会場

1.囲碁 川西町公民館

2.将棋 右に同じ

3.麻雀 川西町役場会議室

三、フオークダンス大会

二十日夜七時 川西町公民館

注 川西町公民館は旧千手中学校、四、参加資格は川西町民に限る。

五、注意事項

・いづれの種目も十七日午後五時までに申し込むこと。

・麻雀は十組(四十名)を限度とし、申し込み順に受けつけ限度以外はおことわりします。

・四人一組とし、牌および卓を各組ごとに持参するものとする。

・開始時間の十時は厳守しますのでそれ以外は失格とする。

・各種目のルールは当日役員が発表する。

・フオークダンス大会は初心者を対象に指導もいたしますので気軽に参加してください。

・不明なところは公民館事務局に問い合わせてください。

なお、公民館が移転しましたことは十二月の広報かわにしに掲載したのですが、間違え方がまだたくさんありますので間違いないようお願いいたします。

場所は 旧千手小学校です

電話は 千手一六七番です

図書も貸出しを行なってありますのでご利用ください。

ふるさと

どこの料理屋へ行っても自分の家のお雑煮は食べられないというけれど、お正月とは最も家庭的なしかも何と独自の味わいのあるものなのだろうか。かと思ふ。九十を越える祖母は、こつは数の子(あまり高価でつい省略)ののいが異なるだけといながら、この家へ嫁いで七十回の祝勝につきました。その行事も食べ物にも何百年も続いて来たわが家の歴史があり、この一年も家族そろって健康で、幸多かれとの祈りがつづまれています。他より一足お先に五日にはお鏡びらきをいただきます。小豆がゆをトコトコ煮ておかきりをつけて、んがり焼いた外側のしこしこかたにおそなえに薄塩味のしこしこかたをつけて食べます。常々刺激の強い食物になれ、ほのかな味わいの小豆がゆがものたらなく、なぜ毎年食えるのかと思つたこともありました。うまくもない小豆がゆをい

つまでも食えるのは、このきびしい条件の土地に生き続けるにはいたすらに著つては生きられないなかつたと思ふ。建家の祖先の苦勞をしのび、年にいちど目ごろのせい(糞)をかえりみ、神に供えた餅を感謝してかみしめることも必要なのではなかるか、と寫は申します。近代化、合理化の波におし流され、そのいわれのわからぬまま、昔からの風俗や行事が年々忘れられぬりかえらぬものを今日です。今一度それらのものを検討し直し、よいものはいつまでも残し伝えていかなくてはならない。このお正月も思いました。

50号を発行して

担当者会 座談 広報よもやまばなし

出席者 丸山精二郎(町議会報告執筆) 保坂 国夫(「やかた」担当) 太田 長栄(かわにし併増選者) 会 坂 四郎(「広報かわにし」編集人) 金子 幸作(「社会教育」担当) 北 村 準一(「町づくり」担当)

(星名)常々おおいそがしいところみなさんのご協力を得まして「広報かわにし」も十二月号をもって五〇号を数えることができましたこの間、編集者も、ここにおいでの子金子さんから、わたしが二代目のパトナツチを受けて、今日にいたっているわけです。

ことさら申しあげるまでもないことです、初代の編集者としていわば開拓者の金子さんの苦勞は

ひとしおだったと思いますし、実は、現にわたし自身、号を重ねるに従って編集のむずかしさというものを痛感しているようなしだいです。

本日お集まりいただいた趣旨も五〇号という道をふりかえって日ごろ、みなさんが本紙に対して考えておられることを意見交換していただき、また、広報のあるべき道といったものを示唆いただいた今後の編集に役立たせたいというお願いにほかなりません。

何からお話しいただきたいとは申しません。ひとつ、気心のしれたところで、ざっくばらんにお願いします。

もつと 投書がほしい

(金子)もう五〇号になったのですか。早いもんだと、長い期間だとも思えて、感無量ですね。

(丸山)いわれてみて、はじめて「もう五〇号にもなったのか」と気がつくくらいで、それはもう編集者にとっては一号一号が切実な母数だろうとは思いますが、一般には、ちょっと気のつきにくいことでしょう。

(金子)たしかに毎号身をけずられるような思いがしたものです。

(丸山)どうですか、編集部への投書といったものは、数が多いんですか。

(星名)あまりないですね。あってもごく特定の人に限られてしまっています。そのせいばかりではないのかもしれませんが、どうかすると編集が事務的になってしまいうるような気がします。やはり、投書というか、

町民のかたの意見もどしどうかかって、実のある編集をやりたいとは思っていますが、ままだらない点です。

(金子)星名さん、いま、事務的になっておっしゃいましたが、広報である、というわけです。

(保坂)公の公報なんだという。(丸山)町村が出しているという制約はたしかに感じますね。議会報告などを書いていると、おもしろくばかりは書けない悩みが常につきまといまいます。これでは読む人の興味を満たせないわかっていながら、筆に制限があつてい

(保坂)お茶の間の記事があつてもよいとは思いますが、公の広報ではあつてもいい。

(丸山)公報なんだから、読んでおもしろいものを作るばかりではない、そう割り切つてもよいとは思いますが、商業新聞の読ませる技術というものに学ぶ点はあるように思います。

教委色がよく 出た編集に

(星名)内容的にみて教育委員会の色彩が強すぎるという声があるのですが。

(丸山)もうすこし総合広報紙というか、役場全体の内容を盛った編集にしてほしいとかいう。そういう声はどの程度まででてるでしょう。

(保坂)教育委員会の職員が編集しているのだから、それなりに色彩がこくてもよいと思えますね。

(太田)いまのお話ですが、教育的な面が強すぎるから、その是

非についてなのか、あるいは、今後教育委を強くしてゆこうということなのか、途中でよくわかりませんが、広報という仕事です。ね、すでに社会教育的な分野のたくさん含まれた仕事なので、それならそんなにこだわる必要がないと思えます。とくに、川西町の場合、もう編集の所在が教育委員会にあるのだし、むしろ、どれだけ適確に教委色が出せるか、その方のくふうが問題になるのではないのでしょうか。

(北村)編集の立場としてはそうであつてもですね、読む側の立場からみたら、町のかたがたの要求がどの辺にあるのかということ、それも問題になると思うので、調査活動みたいなことをやる必要があるように思うのですが。



とにかく昭和三十七年のはじめくらいは、悪いこと、悲しいこと、あった年である。困難問題からわれわれの住んでいる地域にいたるまで筆者がいちいち記さなくともあらゆるマス・コミによって買明な読者はもう知りつくしていることと思う。しかしこれらをあらゆる角度から分析すると大なり小なり社会問題として国民ひとりひとりがじっくりと考えなければならぬことがあつた。

同時に、これら悪いことに驚く。と同時に、これら悪いこと、増えつつある生活は、おとしら、われわれの生活は、お先ききつらという不安が強まり、生きることにささ苦しみを感ずるような気がして、ならない。民主主義、平和な社会、明るい家庭、農業構造改善等まことに美しいことは、盛んに使われてはいるが、どうも

納得のいかなることが多いように、特に山間僻地の農村であるこの地方ではことさら考えさせられる問題である。

幸いことしはウサギ年、飛躍の年ともいわれているので、昨年は昨年として大いに反省し、明るいみ福になつてほしいものと年頭にあらたてて念じているのは筆者ひとりではないと思う。そして念じているだけなく実践に移していかなければならぬのだ。日本人の持ちこたうである依存性、内向性を返上してひとりひとりの国民がその気にすみずみまで大きなまこでみつ

めて自分たちの問題として考えていきたいものであり、それがわれわれの幸福をより早く築きあげる最大の早道ではないだろうか。

ことしはまた地方選挙の多く行なわれる年でもあり、町では四月に県議会議員選挙、八月には町の農業委員の選挙が実施されることになっていく。風潮によると県議会議員選挙では川西町は草刈り場であり川西の票を多く獲得した立候補者が当選するのではないかと、いう声を他町で聞くが、町民の一人として、はまことにふんがいの至りである。しかしそれはそれとして、かなり悪い選挙運動がはいつてくることは違いないと思われ。われわれの代表として、それが一番ふさわしいのか、だが、自分たちの代表として働いてくれるのか、よくみきわめ、正しい、誇りの持てるりっぱな投票をしたいものである。公明選挙ということばは筆者として好きな文句ではないが、悪らつな行為があまりに多いので、つい声を大にして叫びたくもなつてくる。

ともあれ昭和三十八年のすがすがしい新春であり、どこの家庭でも一年の計を立てられていと思われ、がみんなどなかよくこの一年を歩いていきたいと念じているひとりで、川西町長もこの重点目標の一つに人づくりを強調しておられるが、どこの町村よりも良識を持たりっぱな人間となり、変わりゆく社会の中にしっかりと大地に足をふみしめ、前向きな姿勢でひとり百歩前進するのでなく、百人で一歩前進する心構えを新たにしていこうではないか。

(丸山) まあ、投書もあまりない
 広報に対して、町のかたがどのよ
 うな意見を持っているか、どんな
 記事が良かったのか、受ける側の
 反応が知りたい、くらやみで鉄
 砲をうつみたい気分持ちのまま編
 集してしまうことになるかも知れ
 ません。さっきの話ではないが
 編集がごく事務的になるきらいは
 たしかにあると思います。

だからといって、かりに調査を
 やったとして、その正確度の問題
 になると疑問ですね。非常にあい
 まいなものになるんじゃないか。
 それも方法にもよるでしょうが
 かえって真実がゆがめられるよう
 な気がするのです。

(太田) 調査を実施しても、おそ
 らく活用してよいような結果はで
 ないと思いますね。

(金子) 調査をやること自体、す
 でに困難なことでしょう。

レイアウトの
 問題

(星名) 話ばかりありますが、現在
 のB5版という体裁をタブロイド
 版にしたらどうだろうかと思うこ
 とがあるのですが。

(丸山) それはもう、現在のB5
 版で良いんじゃないですか。

(保坂) 保存に便利ですから。
 (太田・金子) 同感ですね。

(丸山) それよりも、見出しのと
 りかたで気がつくことなのですが
 「つづき」とか「ふるさと」と
 いった見出しを、もうすこし目を
 ひくような、たとえば、わくでか
 こむのもよいし、書体をくふうす
 るとか、いまのままだと、どうも
 パツとしないようです。

(星名) こまかなくふりが足のな
 いかも知れません……。



(北村) 花ケイのかこみなんかつ
 けると、たしかに見えのする
 効果的なものになるので、おどろ
 くことがあります。

(太田) 実は、わたしのところで
 こんど、製版カメラを入れました
 写真や活字を縮小拡大する機械で
 すが、これがいよいよたの、いま
 までのように外注にたよる必要が
 なくなり、仕事がスピード・アツ
 プできるし、それだけでなく、お
 もしろい、気のきいたタイトルを
 こっちでくふうする余地もできま
 したから、いっそうご協力したい
 と思っています。

(北村) 原稿の締切りに多少余裕
 ができたんだとうれしんですけど
 (太田) いやいや、それは一日で
 も早く出していただいて。そうで
 しよう、星名さん？ (笑)

(北村) とところで、他町村の広報
 を見ると、横書きにしてしまった
 のを見かけるのですが……。
 (保坂) 横書きは時期が早すぎま
 すよ。近い将来はともかく、まだ

読みにくいでしょう。
 (丸山) 読みにくいというのは習
 慣の問題なんですけど、別な面でも
 理由はありますね。

(太田) 研究文とかパンフレット
 ならよいのですが、新聞形式だと
 眼のうつりからいって縦の方が
 よいし、横書きの場合、行間を長
 くとらないとまずくて、行をかえ
 るとき空白ができるなど、レイア
 ウト(割り付け)の面からも問題
 がでてきます。まあ、ふなれとい
 うことが大きな原因でしょうね。

横書きも数字をとりあげる場合
 とか、洋式が多くなると当然考え
 なければならぬのですが……

(金子) 割り付けの問題が大きい
 ですね。

みんなの
 広報に

(星名) この辺で広報の影響とい
 ったものを考えてみたいのですが
 仙田地区で新聞をとっていない家
 庭がわりあい多く、広報をほん
 うにすみまで読んでいるらしいん
 であらためて、その価値といった
 ものを知らされましたから……

(丸山) 戸籍の窓ですけれども
 あれだけの欄ですが、感慨をよぶ
 欄だと思っています。

(金子) 丸山さんは合併前、橋で
 広報をやっておられたから、広報
 の与える影響面でも何かと経験が
 あると思うんですが。

(丸山) 自分のやった仕事を、自
 分で言うのもおかしいんですが、
 読む人の意識を喚起できるという
 ことは言えると思います。そうし
 た例もいくつかありました。世論
 を盛りあげるといふか、広報が町

づくりの口火を切れるような問題
 はあるはずですから。

(太田) 同感です。

(保坂) みんなが読んでくれてい
 る。これが大きな基盤になります
 ね。出かき者が多い町なんです
 が留守宅の家族が読み終えたら、
 出かき先を送ってやるとか……

(太田) それでまた、どうしたら
 みんなが興味というか、関心をも
 てる紙面にできるかという
 ことなのですが、わたしのもち
 いる「かわにし俳壇」ですね、あ
 れはやっぱりあったほうがよろし
 いんじゃないでしょうか。

(保坂) 情操教育になるんじゃない
 ですか。充実させていたくださ
 いと思います。楽しみにしている
 人が多いですよ。



(金子) 同好者の健在を知ったり
 その道のためにも良いことだと思
 うのです。当初からつづいている
 企画なんだし。

(北村) 登載句の記念出版なんか
 夢でしょうか。

(星名) 五〇号記念の座談会とい
 うと大げさだったのですが、これ
 を機会に、よりよい紙面が作れる
 ようご協力ください。この辺で。
 (旧暦二月二十六日集録)

昭和三十八年

世間には気の強い嫁があるとか
 反対に弱気の嫁もあるそうです。
 でも、わたしはそのどちらにもな
 りたくないんです。自分がまず満
 足し、夫や家族からも満足される
 人間になりたいのです。ことしも
 勉強がしたいのです。集会には心
 よく出してください。(アネサ)

去年は借金して耕運機を買った
 合わないことはわかってはいたが、
 セガレの態度や人手不足でニツチ
 もサツチもいかなかったからだ。
 隣のオヤジも同じことをいって
 いる。共同化、協業化を真剣で考
 える年にしたい。(オヤジ)

もしオラがいなかったとしても
 アネサはアネサなりにやっていけ
 るはずだ。嫁の立場を考えて、意
 見がましいことはできるだけつつ
 しむことにするぜ。家事一切を
 アネサにまかして、オトトとい
 しょに悔のない中年を過ごす年
 にしたい。(オカカ)

オラの若いときは頼まれれば黙
 って米つきに行つたもんだ。だ
 ども、今は時代が違ふすけに、あ
 り強調して年よりのヒヤ水にな
 りたくはない。ことしは何でも相
 談してくれ。オレにも納得のゆく
 ように説明してくれ。仲間はずれ
 だけはして欲しくない。(オジジ)

みんなが大事にしてきてほん
 どうにうれしい。孫たちがときど
 き生懸命な口をきくことも、今の
 子どもはみんなそうなんだとアネ
 サが教えてくれたせよ。それでい
 んだ。決して心配はいらないん
 だ。オラどこのアネサは利口も
 なく、一生懸命に勉強しているぜ
 の。ことしも婦人学級に行つても
 いらいたい。(オババ)

農村がクライジャないの。世間
 のうるさいのがイヤなのよ。ふた
 りだけのヘヤがある家、気がねな
 くに生活のできる家、何でも話し
 あえる家、ことしこそこんな農家
 にとつきたいわ。東京からだつて
 飛んで帰る。(ムスメ)

このごろカカのいうことにはす
 じが通ってきた。なんせ勉強して
 いるんがのし。ことしは夫婦で共
 学でもするか。オレも一つ、ケル
 ープでも作って話しあってみる年
 にしようか。マゴマゴしている
 カカに追い越されてしまう。冗談
 じゃない。(アンサ)

つまでも子どもじゃない
 ことしは自分でみつけるさ。オヤ
 ジ、まかしとき。(ムスコ)

農村がクライジャないの。世間
 のうるさいのがイヤなのよ。ふた
 りだけのヘヤがある家、気がねな
 くに生活のできる家、何でも話し
 あえる家、ことしこそこんな農家
 にとつきたいわ。東京からだつて
 飛んで帰る。(ムスメ)

このごろカカのいうことにはす
 じが通ってきた。なんせ勉強して
 いるんがのし。ことしは夫婦で共
 学でもするか。オレも一つ、ケル
 ープでも作って話しあってみる年
 にしようか。マゴマゴしている
 カカに追い越されてしまう。冗談
 じゃない。(アンサ)

つまでも子どもじゃない
 ことしは自分でみつけるさ。オヤ
 ジ、まかしとき。(ムスコ)

農村がクライジャないの。世間
 のうるさいのがイヤなのよ。ふた
 りだけのヘヤがある家、気がねな
 くに生活のできる家、何でも話し
 あえる家、ことしこそこんな農家
 にとつきたいわ。東京からだつて
 飛んで帰る。(ムスメ)

このごろカカのいうことにはす
 じが通ってきた。なんせ勉強して
 いるんがのし。ことしは夫婦で共
 学でもするか。オレも一つ、ケル
 ープでも作って話しあってみる年
 にしようか。マゴマゴしている
 カカに追い越されてしまう。冗談
 じゃない。(アンサ)

つまでも子どもじゃない
 ことしは自分でみつけるさ。オヤ
 ジ、まかしとき。(ムスコ)

農村がクライジャないの。世間
 のうるさいのがイヤなのよ。ふた
 りだけのヘヤがある家、気がねな
 くに生活のできる家、何でも話し
 あえる家、ことしこそこんな農家
 にとつきたいわ。東京からだつて
 飛んで帰る。(ムスメ)

このごろカカのいうことにはす
 じが通ってきた。なんせ勉強して
 いるんがのし。ことしは夫婦で共
 学でもするか。オレも一つ、ケル
 ープでも作って話しあってみる年
 にしようか。マゴマゴしている
 カカに追い越されてしまう。冗談
 じゃない。(アンサ)

つまでも子どもじゃない
 ことしは自分でみつけるさ。オヤ
 ジ、まかしとき。(ムスコ)

農村がクライジャないの。世間
 のうるさいのがイヤなのよ。ふた
 りだけのヘヤがある家、気がねな
 くに生活のできる家、何でも話し
 あえる家、ことしこそこんな農家
 にとつきたいわ。東京からだつて
 飛んで帰る。(ムスメ)

このごろカカのいうことにはす
 じが通ってきた。なんせ勉強して
 いるんがのし。ことしは夫婦で共
 学でもするか。オレも一つ、ケル
 ープでも作って話しあってみる年
 にしようか。マゴマゴしている
 カカに追い越されてしまう。冗談
 じゃない。(アンサ)

つまでも子どもじゃない
 ことしは自分でみつけるさ。オヤ
 ジ、まかしとき。(ムスコ)

ねずみは食物や衣類、家具などを食べ荒すばかりでなく、腸チフス、セキリなどの伝染病や、食中毒などの病源を運ぶので、どこでもきまられる。

ねずみは、三月ごろから繁殖期が始まり、五六月ごろが最も多くなる。この逆に一番少ないのは、二月ごろであるから、この時期にうまく退治すれば、一挙に絶滅することができるとは、一歩に絶滅する。

「ねずみが生活する環境を締め出し、薬剤やねずみ取り器を組み合わせて使う。」

(1)ねずみの出入口をふさぐ。

(2)すぐ口に入れるものは必ず戸棚に入れる。野菜は出し放しにせず、フタのある入れ物にしまふ。ねずみは飢えに案外弱いので、二三日食べるものがないとが死してしまう。

(3)巣を作らせない。お勝手、あけ板の下とか、調理台の下とか、ちょっと人目につかない所をよく掃除する。ねずみの習性として、物かけとか安心して食べられる場所が整理されると、警戒してよりつかなくなる。

(4)ねずみ取りを置く場合は、掃除をせずに、ねずみの出入口の近くに五〇センチぐらい離して、いっぽうには板かタルでかけを作つてやる。こうすると、物かけなので、安心して(?)ねずみ取りにかかってしまう。

(5)毒だんごを使う時も、改めて掃除をせずに、物かけに置くほうが効果的である。

ねずみ退治の好期

「あまたねずみか」ぐらゐの感覚で放つておきがちであるが、この寒い一二月を利用して退治するとよい。昨秋行なわれたねずみのいっせい駆除では、川西町で二千九百六十八匹の死鼠が集められた。これは全町いっせいに実施されたから薬で殺されたねずみはおそらくこの十倍と思えばよい。しかし洩れ聞くと、ところどころ、小千谷市の阿部さんはひとりで五千匹以上もつたそう。こうなるとねずみの繁殖力の旺盛さには驚くばかりではない。

全県の結果は、一月二十五日新潟日報ホールで実施されるねずみ祭りで行われるが、当日はねずみくじの抽籤会も行なわれる。

町でもとつたねずみの数により大量の景品をお届けすることになっていきます。次号で町の結果の詳細をお知らせいたしますので、せいせいコタツのなかでおたのしみな……。

「ねずみは食物や衣類、家具などを食べ荒すばかりでなく、腸チフス、セキリなどの伝染病や、食中毒などの病源を運ぶので、どこでもきまられる。」

「ねずみは、三月ごろから繁殖期が始まり、五六月ごろが最も多くなる。この逆に一番少ないのは、二月ごろであるから、この時期にうまく退治すれば、一挙に絶滅することができるとは、一歩に絶滅する。」

「ねずみが生活する環境を締め出し、薬剤やねずみ取り器を組み合わせて使う。」

(1)ねずみの出入口をふさぐ。

(2)すぐ口に入れるものは必ず戸棚に入れる。野菜は出し放しにせず、フタのある入れ物にしまふ。ねずみは飢えに案外弱いので、二三日食べるものがないとが死してしまう。

(3)巣を作らせない。お勝手、あけ板の下とか、調理台の下とか、ちょっと人目につかない所をよく掃除する。ねずみの習性として、物かけとか安心して食べられる場所が整理されると、警戒してよりつかなくなる。

(4)ねずみ取りを置く場合は、掃除をせずに、ねずみの出入口の近くに五〇センチぐらい離して、いっぽうには板かタルでかけを作つてやる。こうすると、物かけなので、安心して(?)ねずみ取りにかかってしまう。

(5)毒だんごを使う時も、改めて掃除をせずに、物かけに置くほうが効果的である。

「ねずみは食物や衣類、家具などを食べ荒すばかりでなく、腸チフス、セキリなどの伝染病や、食中毒などの病源を運ぶので、どこでもきまられる。」

「ねずみは、三月ごろから繁殖期が始まり、五六月ごろが最も多くなる。この逆に一番少ないのは、二月ごろであるから、この時期にうまく退治すれば、一挙に絶滅することができるとは、一歩に絶滅する。」

「ねずみが生活する環境を締め出し、薬剤やねずみ取り器を組み合わせて使う。」

(1)ねずみの出入口をふさぐ。

(2)すぐ口に入れるものは必ず戸棚に入れる。野菜は出し放しにせず、フタのある入れ物にしまふ。ねずみは飢えに案外弱いので、二三日食べるものがないとが死してしまう。

(3)巣を作らせない。お勝手、あけ板の下とか、調理台の下とか、ちょっと人目につかない所をよく掃除する。ねずみの習性として、物かけとか安心して食べられる場所が整理されると、警戒してよりつかなくなる。

(4)ねずみ取りを置く場合は、掃除をせずに、ねずみの出入口の近くに五〇センチぐらい離して、いっぽうには板かタルでかけを作つてやる。こうすると、物かけなので、安心して(?)ねずみ取りにかかってしまう。

(5)毒だんごを使う時も、改めて掃除をせずに、物かけに置くほうが効果的である。

(衛生係)

町の掲示板

▼嘱託員さま……①
一月八日現在で、次の新しい嘱託員がきまつた。

○中島町佐藤富蔵○山野田柳田
○糸電所所通藤巻啓作○四郎兼
平野要作○東善寺小野塚源吉○上
町清水京平○中央町大井正司○田
中太田善次郎○神社町高橋広義○
学校町星名熊七○中屋敷南雲周二
○寺尾小林正勝○木島高橋庄作○
○寺尾数藤志夫○伊友星名啓助○高
原田丸山愛蔵○坪山高橋茂雄○箱

▼庁内人事
退職者 北村文太郎 (総務課)
退職者 星名セツ (保育園)
新採用者 小川広一 (財政課)

▼野口に婦人学級
野口に婦人学級が開設され、本月十八日に部落公民館で開級式をあげることにした。同部落婦人会(滋野ヨシ班長)のバックアップで六十名の希望者が集まり、手を取り合つて継続的な勉強をすすめていくことになったもの。開級式のとて話しあい、世話役などを決め、ことしの学習計画をたてることになっている。

これまで地区内の学級開設に力を尽くした丸山操さん(橋婦人会長)は、「この地区も上野に次いで全部に学級が開設されることになりました。学んだことが暮らしの中に生かされ、今後、地域や婦人会の前進に一段と拍車をかけてくれることになるでしょう」と語っている。

戸籍の窓から

うぶ声—御すこやかに

関口 秀隆 長平長男 神社町	丸山 豊 一徳長男 原田
田中美智代 義文長女 仁田	丸山 由美子 敏雄二女 大白倉
井口 朗 栄治郎長男 仁田	桑原 寿 哲之長男 桐山
山田 英子 五作長女 仁田	桶口 幸人 重夫二男 中仙田
村越 秀美 伊二男 野口	
出口 博樹 正美長男 木落	
丸山 聡 謙 長男 下原	
丸山 豊 一徳長男 原田	
岡島 由美子 敏雄二女 大白倉	
桑原 寿 哲之長男 桐山	
桶口 幸人 重夫二男 中仙田	

昇天—御めい福を祈る

丸山 京松 根 深 八七	新婦 山崎 達夫 中央町
田口 イチ 木 落 八四	新婦 太田美栄子 新井市から
蔵品 フジ 霜 糸 八三	新婦 水品 真治 三 領
佐藤 サン 藤 沢 八〇	新婦 村山タツエ 中 糸から
内山 佐九治 新町 七九	新婦 星名 民雄 上 野

たかさご—御円満に

渡辺 正一 鶴 吉	新婦 高橋 信雄 三 領
戸田千津子 仁 田から	新婦 高橋 幸三 三 領から
相崎 国平 沖 立	新婦 滋野 一男 仁 田
相崎 タカ 沖 立	新婦 野沢 豊子 野 口から
保坂 信男 沖 立	新婦 根津健治郎 原 田
真霜ヨシノ 高 山から	新婦 尾身 綾子 真 田から
佐藤 徳男 伊 友	新婦 藤田 富雄 根 深
柳 ヨエ 山 谷から	新婦 稲餅 厚子 真 人から
富井 幸夫 伊 友	新婦 茂野 整二 藤 沢
佐藤 千恵 岩 沢から	新婦 高橋ハルイ 田 戸から
山崎 達夫 中央町	新婦 小川 正治 越 沢
太田美栄子 新井市から	新婦 半間久美子 十日町から
水品 真治 三 領	新婦 川崎 寛平 越 沢
村山タツエ 中 糸から	新婦 春日 桂子 樽 沢から
星名 民雄 上 野	新婦 川崎 保 越 沢
小海たか子 小根岸から	新婦 丸山ハルエ 木 島から

かわい

元朝の太夫高き風し雲
教え子の文字たのもしき年賀状
よき下駄の鈴が鳴るなり羽子をつ
く新町 渡 辺 野 軒 水
◎志なく古稀を迎えて老の春
開田の初収穫の雑煮かな
大倉 金子 洋 石
隣か家の太き煙りや松の内
寒梅と並べて置くや小鳥かこ
千手 又 手 疎 忽
初雀とび立ち野の雪の散り
野 口 野 沢 貞 夫
はかどらぬ災害工事しぐれつつ
上野み よ し
一日の日和備けと冬用意
元町 金子 鉄 平
嫁ぎきてなじみ始めのお正月
あけましておめでとう
ございます

編集後記

不景気をうたわれながら歳末のデパートは、史上最高の札束がつかみあげられたといひ、耕運機の響きがひきも切らず勇ましく行き交う農村に、離農者対策がうんぬんされながらも、めでたく新玉の年を迎えました。

新しい年も古い年同様、いろいろなお知らせがごありになります。が、ともかくもご無事で、ご健康で、しあわせ多くありますように！

そしてことしもまた町民各位の広報へのかかわりご支援ご協力をお願いいたします。